

あさぎい病院の無痛分娩について

ご存じですか??



あさぎい病院では 1999 年から無痛分娩を開始しています。
2021 年には 322 人(全体の 34%)方が無痛分娩を行っています。
興味のある方は無痛分娩を検討されてみてはいかがでしょうか？

無痛分娩を希望している！どうしたらいいの？

20 週頃の健診時にお渡しする「妊娠情報シート」で希望の有無を確認します。
無痛分娩を希望している方や、迷っている方には 30 週前後の健診で説明同意書をお渡ししています。
同意書は記入した状態で、分娩入院時にご提出下さい。

無痛分娩は予約制なの？

当院では無痛分娩の**事前予約は必要ありません**。
ただし、安全が確保できない場合等、やむを得ない場合は無痛分娩ができないことや、開始するまでお待ちいただく場合もあります。安全第一で行っています。ご了承ください。

いつまでに無痛分娩するか決めたらいいの？

陣痛で痛みが我慢できなくなっても、無痛分娩を希望していただけます。
スタッフに声をかけてください。

無痛分娩って高いですよね…？

無痛分娩は自費です。
基本料金 110,000 円～(夜間・休日・深夜の開始は時間外料金が発生します。)

無痛分娩ってどんなもの？どれくらいの方がやっているの？

無痛分娩について(動画)



無痛分娩の説明同意書



昨年度実績



無痛分娩と和痛分娩って何が違うの？

名称の違いで、行っている行為は同じです。当院では無痛分娩と呼んでいます。

無痛分娩しても痛いでしょ？

無痛分娩をしても痛みは0にはなりません。

陣痛の痛みは軽減しながら、赤ちゃんを出産した実感をもってもらえる無痛分娩を目指しています。

あさぎり病院の無痛分娩について

当院では1999年に産婦人科専門医で麻酔科医でもある野原先生が入職されると同時に、硬膜外麻酔による無痛分娩を開始しました。

2019年10月から、CADD-Solisポンプを用いた自動間欠投与+患者自己調節投与(PCA)を組み合わせたPIB法を採用し、安全で効果的な麻酔管理を継続しています。

以前の持続投与方法では、鎮痛効果が弱くスタッフが局所麻酔薬を追加注入しなければならず、追加が多くなると足に力が入らなくなり‘いきみ’がうまくできないケースが多くなっていましたが、PIB法では自動間欠投与のみでも十分な鎮痛効果がありますし、痛みが強くなってきたときに産婦さんが自分でボタンを押して追加注入することが可能となり、しかも足をふんばって‘いきむ’ことができるようになりました。

とはいえ、硬膜外麻酔のみでは陣痛の痛みは和らいでも、児頭が下降してきて産道を通すことによる圧迫感・違和感は無しにはできません。帝王切開の手術もできる脊椎麻酔を併用すればその感覚も無くなりますが、運動神経も遮断されるので下半身を動かすこともできなくなります。当院では、陣痛の痛みが和らぐことで産婦さんが冷静になってしっかり自分と赤ちゃん向き合ってお産を迎えられるお産、痛みは楽になったけど赤ちゃんを出産した実感はしっかりもってもらえるような無痛分娩を目指しています。

一方で硬膜外無痛分娩では、陣痛が弱くなって陣痛促進剤を使用する頻度が高くなること、吸引分娩や鉗子分娩等の器械分娩が多くなることも報告されており、当院でも例外ではありません。お産はお母さんと赤ちゃん2人の命がかかっている人生最大のイベントです。自然分娩も無痛分娩も帝王切開分娩も器械分娩もすべて優劣のない立派なお産です。それぞれの産婦さんの希望に寄り添いながら素敵なお産を迎えましょう。

無痛分娩について(あさぎり新聞)



ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。